

あいの風だより

NO.4

●編集・発行 富山県企画部広報課
〒930-80 富山市新総曲輪1-7 電話 0764-44-3134
FAX 0764-44-3478

県人口(9.12.1現在推計) / 1,126,584人
男 / 543,164人 女 / 583,420人
世帯数 / 347,934世帯

誇りたい、日本の遺産。

—瑞龍寺・桜町遺跡・恐竜足跡化石—



昨年12月、高岡市の瑞龍寺の山門、仏殿、法堂が本県初の国宝に指定されました。建造物としては30年ぶりの国宝指定となります。瑞龍寺は、加賀藩二代藩主、前田利長公の菩提寺として三代藩主の利常が建立したもので、江戸時代における寺院建築の最高峰とされています。

また、小矢部市の桜町遺跡においては、縄文時代中期の貴重な遺物が次々と発掘されているほか、大山町の林道法面で国内最大級の恐竜足跡化石露頭が発見されるなど、このところ富山県内では、全国から注目を集める発見・発掘が相次いでいます。

これらの文化財は、富山県のみならず日本の遺産でもあります。

目次	P1-3	特集1 / 誇りたい、日本の遺産。 —瑞龍寺・桜町遺跡・恐竜足跡化石—
	P4-5	特集2 / 第28回県政世論調査
	P6	あなたと未来を語りたい。 ～プログラム案を“21世紀のたたき台”に～
	P7	県からのお知らせ
	P8	●県政Q&A ●シリーズ / 富山の秘境④ ふるさとの味

国宝 瑞龍寺 江戸時代寺院建築の粋

●瑞龍寺の沿革

瑞龍寺は、加賀藩の名匠、山上善右衛門嘉廣を大工棟梁として、正保三年（一六四六）に起工。利長公の五十回忌にあたる寛文三年（一六六三）には伽藍全体が完成していたといわれています。

その後、延享三年（一七四六）の火災で「山門」「禅堂」などが消失しましたが、山門以外は直ちに再建。山門は高岡町民の熱意が実って七十年余りを経て再建の許可が下り、山上善右衛門吉順を棟梁として文政三年（二八二〇）に完工しました。

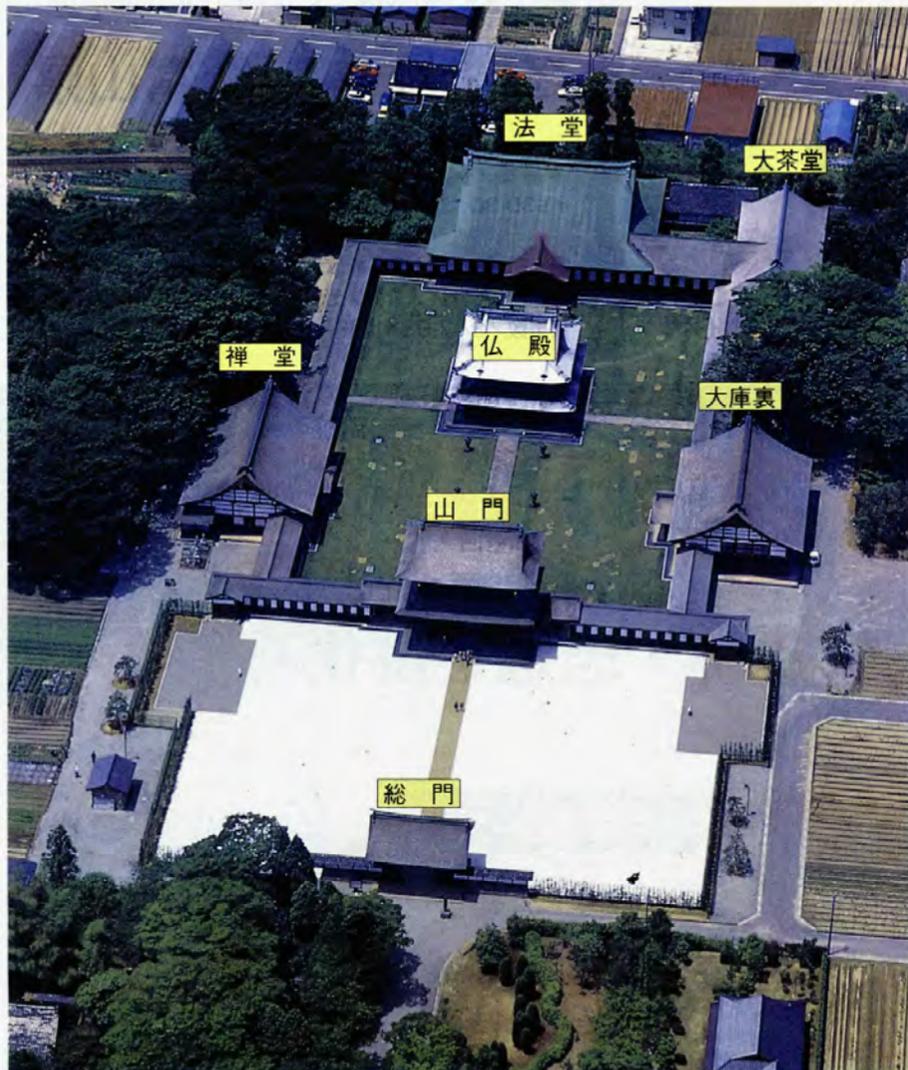
藩の援助が途絶えた明治維新後は、「大庫裏」や「回廊」の一部が失われますが、明治末期から大正初期にかけて回廊の東部分を復元。明治四十二年には「仏殿」が、昭和三年には「総門」と「法堂」

が重要文化財に指定され、昭和十年から二年余りをかけてこの三棟の解体修理が行われました。

そして、昭和六十年から始まった大改修では、調査途上で転用材や古図などが発見され、「指定建造物の修理」から「伽藍全体の復元」に方針が変わり、平成八年まで約十年の歳月をかけ、創建当時の姿が現在によみがえりました。

●美しい伽藍配置

瑞龍寺の最大の特徴は、その伽藍配置にあります。総門から見て、山門、仏殿、法堂を一直線に、禅堂と大庫裏を左右に配置し、山門の両脇から伸びる回廊が三百メートルにわたって内苑を取り囲んでいるその整然とした景観は、典型的な禅宗建築の様式を示しています。



仏殿 万治二年（一六五九）建立

本尊を安置する中心殿堂。方三間の身舎（主家部分）に裳階（軒下壁面に造られた片屋根部分）が付いた禅宗仏殿様式をとる。

入母屋造りの屋根は鉛の本瓦葺きで、鉛の総重量は四十七トン。屋内は減柱造（柱を少なくして空間を広める方法）で、天井の架構法は国内に例を見ないほど複雑華麗。柱は全て円柱で、来迎柱（本尊の後方左右にある柱）を利用した柱組や、大小二段の海老虹梁（湾曲して架した化粧梁）と大瓶束（虹梁の上に立てる徳利型の柱）の結合などに驚くべき構造美が打ち出されている。また、繊細優美な小組



江戸初期の寺院建築の頂点「仏殿」

見事な須弥壇に安置された釈迦・普賢・文殊

格天井（角材を小さな格子型に組み、上に板を渡した天井）や精巧緻密な彫刻など、細部にわたる優美な意匠も見逃せない。

法堂 明暦元年（一六五五）建立

重要な法儀を行う堂。入母屋造りで屋根は銅板葺き。前面に幅四メートルの広縁と土廊があり、これらの延長が「高廊下」として「大茶堂」に続いている。

内部中央には三部屋が前後並列に計六部屋あり、真ん中奥が利長公の位牌を安置する仏間。内陣の周囲の壁面は金箔貼りで、天井には狩野安信筆の百花が描かれている。また、桃山時代の風格を備えた鳳凰欄間は、一層荘厳な雰囲気醸し出す。外部の柱間には、櫓棧（斜めに交差した形の棧）の板張りを、窓上には明か



大規模な書院風建築物「法堂」



法堂内陣欄間

り取りの格子欄間を設けるなど、雪国ならではの工夫が見られる。

山門 文政三年（一八二〇）再建

回廊に囲まれた禅院内苑への正式な門戸。三間一戸（正面の柱間が三つ）の二階二重門で、入母屋造りこけら葺き。左右に金剛力士像を配し、上層には釈迦如来と十六羅漢を祀る。高い建ちと深い軒（約四メートル）の堂々たる容姿は、禅宗寺院山門の代表格というにふさわしい。組み立ての際に和算（江戸時代の数学）を応用したことが、何厘、何毛の単位までの寸法を記した設計図などから判明。また、櫓の狂いを見越した埋木（材木の隙間に木を埋めて繕うこと）が随所に施され、木目まで合わせた神業ともいえる技能が発揮されている。



「山門」は、初代善右衛門の芸術性が受け継がれている

今回の国宝指定は、瑞龍寺が寺院建築の最高傑作であることのみならず、昭和・平成の大改修によって創建当時の様式が明らかになったことが評価されたものです。その意味で、再建・修理にかけてきた人々や県民の熱意が実ったともいえるでしょう。



300mにわたり、内苑を取り囲む回廊